

## 生駒市市民自治検討委員会設立準備会（第8回）議事要旨

日時：平成16年5月20日（木）10:00～12:00

場所：市役所402会議室

出席委員（敬称略）：相川、中川、野口、上埜、金谷、鶴田、森

### 1. 中間報告について

中川委員：今日は大きく分けて2つある。1つは中間報告の最終的な確定である。前回からの修正があったようだが。

事務局：お手元の中間報告について、字句等の見直しは済んでいる。表紙や会議風景など、このような写真を使い、このようなイメージで製本に進んでよいか。

森委員：生駒八景の絵はがきのようにスケッチ風に描いてもらえばどうか。経費、時間の面で無理であればこのままでよい。

中川委員：著作権の問題があると思うので、事務局に任せる。

事務局：製本のやり方で、後ろの2枚が表紙になる関係で、最後の41ページの次のページがブランクになる。この白紙になるページの活用に関わって何か良いアイデアはないか。

森委員：白紙のところは生駒市の簡単な沿革を書いてはどうか。教育委員会にでもお願いして、エッセイ風に書いてはどうか。

相川委員：メモ欄にしてはどうか。会場に来たときにちょっとメモを取れる。

事務局：パブリックコメントなどカタカナでハイカラな言葉が使われているので、内部的には言葉の説明にしてはどうかと考えている。

中川委員：例えば、アイデンティティも業界用語としてはわかるが、市民にとってはわかりにくい言葉である。きちっと説明した方がよいので、用語集にしてはどうか。コミュニティ、NPO、市民団体という言葉は、全部位相、切り口が違う。きちんと定義しないと現場で混乱が起こる。

野口委員：余ったページが出る、出ないに関係なく、用語集は付けるということにすればどうか。

中川委員：そのようにする。中間報告についてはこれで了解ということとする。

## 2. 今後の進め方（シンポジウム開催に向けて）

中川委員：次にシンポジウムについて話をしたい。論点は3つあると思う。1つは、主催団体をどのような構成にするかということ。市と共催でいくのか、あくまで本準備会主催で行くのか、逆に、市主催で準備会が共催あるいは後援という3通りの考え方がある。2つめは、議会をどうするのかということ。議会にも入ってもらいたいというのは、政治学的にいうと当然のことだが、そこまで現在状況が成熟しているのかということ。3つめは、中身の進め方、実務的なこと、戦術的なこと。この3つにわたる議論が必要。ペーパーを出された委員に順番にお願いしたい。

鶴田委員：シンポジウムの目的は、ボトムアップをねらうというか、間口をひろげるということ。広くいろんな層の市民に働きかけていきたい。後援をPTA協議会にとどめず、生推連（生涯学習推進連盟）も含めてはどうか。せっかくの機会なので、アンケートを書いてもらうことを提案した。第一部として、として市長に挨拶をして頂き、できれば最後まで会場にいて頂きたい。は来賓紹介というかたちで、議会の方にも来て頂きたい。の先進自治体からの報告については、言葉で言うよりも、映像的なものがあれば訴えやすい。今年の初め頃に、NHKの「クローズアップ現代」で志木市と美山町を紹介した番組があった。もし、この辺の方が来られるのであれば使えるのではないか。の中間報告は準備委員にして頂く。第二部では、模擬検討委員会は難しいかもしれないが、発言時間などのルールをしっかり定めた上で、会場からの意見を求める。もう1つは、来て頂いた方と準備委員会によるパネルディスカッションをして、その後、質疑応答、意見を述べて頂く時間を取る。最後に、今後の取り組みへのお誘いで閉会すればどうか。

中川委員：会場を交えた模擬検討委員会というのは、ワークショップのことが。

鶴田委員：できればそうしたいが、ワークショップとしては規模が大きすぎるので難しいかもしれない。

中川委員：ワークショップは、1グループ7～8人が限度である。第2段階であれば考えられるが、1回戦からワークショップは難しい。問題意識のレベル、参加への動機付けがバラバラで、收拾がつかなくなる恐れがある。「クローズアップ現代」のビデオはなんとか手に入らないか。NHKに確認してほしい。

鶴田委員：美山町のビデオでは、住民満足度は住民自ら上げていき、官と民が共に地域づくりをやるということで、いいなと思った。

中川委員：志木市と美山町とで共通しているのは、経営難ということ。地域を住民自身が経営するという中で住民満足度を上げるということである。顧客満足度ばかりを重視して、経営に対する自己責任の議論が不足するというのが、ニューパブリックマネジメントを議論する場合に最も壁となる問題である。ビデオについては使えるツールである。しかも志木市も美山町もこの会議の中で出

てきている町である。他は群馬県太田市、兵庫県生野町、宝塚市などがある。

金谷委員：「シンポジウム企画書案提出に際して」のテーマ「生駒における 21 世紀型市民自治を考える」について、一般の市民がこのテーマをどのように考えるのか、少し噛み砕いて広報誌などで先に出してはどうか。テーマを理解してもらうことが大事で、そうでないと市民が参加する気持ちにならない。広報について、特にマンションの住民の意識が低いと思うので、分譲マンションの掲示板でできればよいと思う。マスコミの活用について、ミニコミ紙なども含め、あらゆるマスコミを利用してPR活動を行えばどうか。礼儀として、事前の挨拶回りも必要だと思う。開催当日の資料については、市と準備会でやるとして、我々NPOの方でも協力できればと思う。主催・共催については、NPOのミッションとして後援はふさわしくないと思うので、共催でできなければ運営協力団体として参加してもよいと思っている。次のページの「Q & A方式による問答案」は、この通りでなく、こんな感じのものでということ。次のページの「シンポジウム企画案」については、趣旨として私たちの考えを書いている。次の「シンポジウム開催日のことについて」について、1の準備について、準備会メンバーは準備作業に入れないと思うので、市と自治会連合会、NPOネットワークをお願いしたい。2の司会については、NPOネットワークの谷村さんを推薦したいと思う。3として、開会前に生駒太鼓などで元気付けをしたら、堅苦しい雰囲気は和らぐのではないかと。また、基調報告とパネルディスカッションの合間の短い時間にギター、ハーモニカなどを入れたいと思う。4の挨拶については、市長だけでなく、市議会議長にも挨拶にたってもらいたい。地方自治体の議会というのは、二代表制であるということを確認するという趣旨。の基調報告で、準備会の中間報告は会長に一任したい。のパネルディスカッションについては、この会議に出ている人が決めればよいと思う。の参加者との意見交換について、多人数の場合、極端な意見が出たりして会場が混乱するのではと懸念している。事前に質問者を決めておいてはどうか。あと、市の責務、市民の責務、議会の責務について、当日何らかのかたちで説明できる場があればと思う。また、アンケートとともに、タウンミーティング参加者募集のチラシも一緒に出せたらと思う。

中川委員：採用すべきだと思うのは、質問表を会場で配り、時間を決めて回収し、コーディネーターが整理して対応するというやり方。これはけっこうストレスが残らない。それをしないのであれば、予定質問者を2名くらい決めておくことである。人数が100~200人になると質問表を配るべきだと思う。100人以上になると、質問するのは演説したい人のみになる。アンケートでタウンミーティングにつながるようにすればよい。

森委員：まず、主催者は生駒市と本準備会の共催にするべきである。また、市議会が最初からシンポジウムに参加しないと、市民から疑問が出ると思う。それから、生駒市ぐらいの人口や町の規模であると、ポスターがメディアとして非常に有効だと考えている。シンポジウム&サブ・シンポジウムにかかわる私の提案書の4ページ目であるが、最初、中川会長から、ご挨拶と趣旨と今後の方向付け等のベーシックな点はお伝え頂ければ有難い。次に、市長が、共催者代表である生駒市長として挨拶するとともに、市民自治検討委員会設立の趣旨と市民への積極的な呼びかけなどを語って頂きたい。市議会の件は、市議会もこの新しいまちづくりの動きに呼応して動いていく旨をコメン

トして頂きたいが、パネリストの一員としての参加が難しければ止むを得ない。同じく提案書の5ページであるが、先進自治体からの報告として埼玉県志木市長、群馬県太田市長等しかるべき方をお願いしたい。3番目のパネルディスカッションについては、近隣自治コミュニティの先進事例の代表者はぜひ入って頂きたい。市民団体の代表としては金谷委員が適任だと思う。あと、準備会の市民委員、学識経験者について委員長に人選を一任して選ぶ。また、全体が堅い話となるので、この近辺で音楽をやっている若いアマチュアの方に一曲披露してもらおうとか、休憩に会場のみんなで明るい歌を合唱するというようなことも良いのではないかと。最後になるが、サブシンポジウムについては、まず最初のシンポジウムの中で、いろいろと反省点が出てくると思うので、それをよく理解して各委員間で詰めていきたいと考える。

中川委員：ますます論点がはっきりしてきたと思う。1つは主催・共催に関して、もう1つは議会との付き合い方、いずれも、形式的にどうするか、実質的にどうするかという議論は分けて頂きたい。3つ目の中身の問題については、できるだけ堅苦しくならないように、議論が広がるように工夫する。PRについては最大限の努力をしてほしい。1部と2部の転換において何らかのアート関係を入れてはどうか。やって頂ける方があれば、市民参加にもつながる。まず、主催・共催について、みなさんにご意見を頂きたい。自分の立場としては、主催に市と教育委員会が入ってもらう方がよいのではと考えている。準備会が主催というのはおさまりが悪いのではないかと。

森委員：個人的には、新しい風を吹かせたいという思いがある。

中川委員：ユニークなやり方であるが、なぜ準備会に責任があるのかとってしまう。やはり、行政に責任があるのでは。

野口委員：主催は準備会の方がよいと思う。啓発というのは大きいと思うので、そこを考えると、準備会が名実共に仕掛けてするのが良い。また、市、議会それぞれのバランス・オブ・パワーを考える必要があり、基本条例の性質をみたときに、行政も議会も当事者であるから、行政を入れると議会はどうするのかということになる。だから、準備会が主催で、市等が共催、そして後援が鶴田委員の言われた諸団体などとした方がおさまりがつくのではないかと。

上埜委員：1月に檀原市で「コミュニティづくりフォーラム・なら」というのが開かれ、参加した。主催は奈良県と親切・美化奈良県民運動推進協議会で、今言われたような感じであったと思う。テーマは「地域を元気にする」ということで、パネリストは名古屋大学の先生と神戸の月見山連合自治会事務局長、宝塚NPOセンター事務局長、檀原市連合自治会の3人であった。しかし、基調講演の後、協議の前に半分位は帰ってしまわれたのは残念であった。

相川委員：形式的なことを言うと、最終的に提言をまとめていくのは、この後の正式の委員会である。その設立に向けて、準備の段階で正式な委員会を立ち上げるために呼びかける手段としては、準備会だけの主催でよいのではと思う。

中川委員：了解した。主催は準備会、共催として市と教育委員会を入れる。これは、責任元として、発注者、クライアントとしてということ。第1弾はこれで完了。第2弾の市議会の扱い方であるが、私は議会の議長に挨拶をして頂くのが筋だと思う。現実に議長が挨拶を読み上げるだけでも意味があると思う。一般の議員の方に対しては、まず中間報告、シンポジウムなどの情報を積極的に提供し、理解を深めて頂くことが必要である。

野口委員：議会は利害関係のある当事者になってしまうので、差し控えてはどうかと思う。議会との関係を検討するのは委員会であり、準備会の段階では、当事者はなるべく巻き込まない方がいいのではと思う。

森委員：近い将来に検討委員会になるのであるから、準備会だからやらないというのはやめてほしい。今後議会との調整が必要になるのだから、最初の段階から中に入ってもらいたい。

野口委員：検討委員会になれば、その中に入ってもらう必要がある。今は準備のための会であるから、まだ最初に至っていない段階である。

中川委員：これは、簡単なようで複雑な議論である。森委員の話は運動論でもある。状況を切り開くためにどうするかということ。野口委員の話は、まだまだ広まっていない段階であり、今から石を投げる状態で、まずは市民的に広げていくのが重要ということである。分析とそれに基づく判断と運動論が必要であり、どこかで決断しなければならない。最終的には、行政がイニシアティブをとって判断する必要があると考える。

森委員：今回、シンポジウムから市議会をはずしてやったら意味がない。今後続いていくのに、途中から入ってくれというのはおかしい。

中川委員：先ほど議論を整理したが、理念論はやめようということである。状況分析と運動論に基づく判断が必要である。「こうあるべし」と理念で議論しても良い答えが出るとは思えないということである。

相川委員：条例化すると、当然議会の議決が必要になる。議会の責務も出てくる。だから当事者になるのであるから、中間報告が出れば、正式なルートで話しておく必要がある。挨拶をされるかどうかは別として、議長に声をかけておくことは必要である。

野口委員：そうであれば、共催に議会も入れるのか。挨拶は、主催・共催団体からいただくということで形式的な整理ができる。

中川委員：来賓挨拶という手もあるのでは。私の経験からいうと、三重県の伊賀地区で合併協議会が完了し、議会の在任特例を使うことになった。その理由としては住民自治機能を強化するためということで、こういう考え方もある。この考え方でいけば、本来議員はこのようなものに関わるべ

きものである。しかし、現実には、まず市民サイドの力を蓄えることが必要である。だから第1回目は来賓挨拶でどうか。議会が主催、共催に入るのは無理であると思う。ここで確認したいが、筋を通すということで、議会に挨拶をお願いするということかどうか。

金谷委員：議会に全く声もかけないという印象をもたれるのは好ましくない。

野口委員：主催者から議会に対して、挨拶をお願いに上がる必要がある。

事務局：この中間報告書も議会で説明させていただく。また、ホームページにも載るし、オープンになっていく。そうすることによって、言葉に慣れていただくことも必要。

中川委員：法定の合併協議会で決まったことでも、議会でひっくり返されることがある。議会とは、それだけ重い存在である。今回の場合は、議会も含めて、理解者、協力者にしていかなければならないが、まず議会という団体としては無理なので、議会の議長さんに挨拶をお願いするということが礼儀である。

事務局：議会は市長部局と別機関となっているので、議会事務局と協議して進めたい。

野口委員：その際、議会サイドの反応が予想できないので、会長・副会長に多少のフリーハンドを任せていただきたい。具体的な調整は事務局でやってもらう。

金谷委員：シンポジウム開催日は7月のどのあたりか。

事務局：今日の意見に基づき肉付けをするが、準備など時間がかかるので、オプションを付けていけば開催が先送りになる可能性がある。目途として7月中でお願いしたい。

森委員：このような行事は、土曜、日曜どちらがよいのか。

事務局：一般的には土曜日もよいとされているが、やはり日曜日の方がよい。土曜日は働いている人もおられる。

(各委員の日程調整、7月の日曜日はすべてダメになった。)

中川委員：そうすると、土日も候補に入れる必要がある。できればお盆前にしたい。

野口委員：それも含めて、次回6月の会議で確定させてはどうか。

### 3. その他

各委員の日程調整の結果、次回会議は6月24日（木）午前中に決定。

以上